

4. センターより

4.1 部門組織・体制と委員会委員

4.1.1 部門の組織・体制
 平成23年4月1日より環境安全保健機構に編成され、主に研究に携わる環境安全保健機構附属環境科学センターと業務を行う環境管理部門の2つの名称を持ちました。

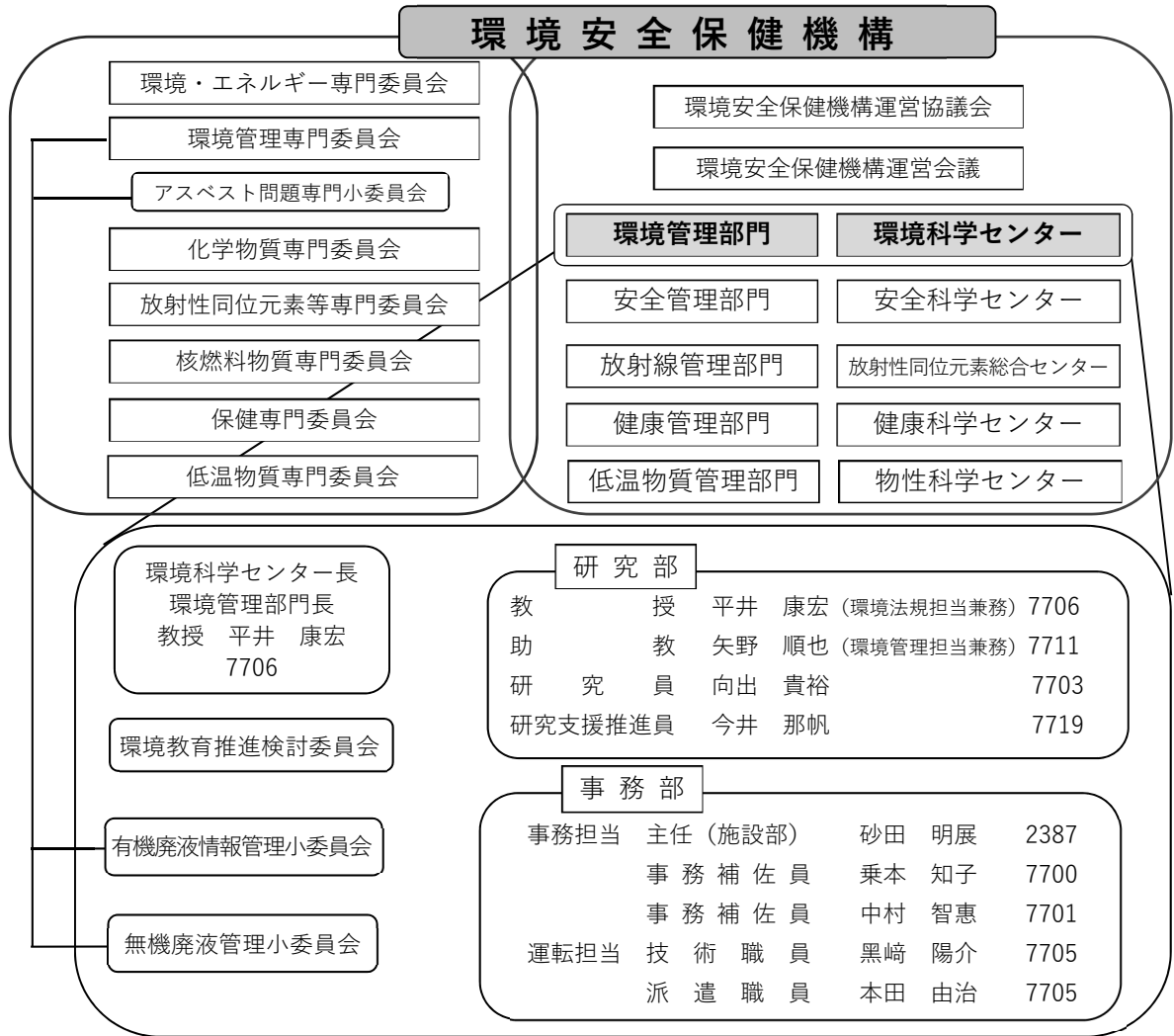


図1 環境科学センターの組織 (令和3年11月現在)

令和4年4月1日からは再度改組が行われ、環境安全保健機構環境管理部門と一つの名称となっています。

令和4年度からの組織および体制を以下に示します。

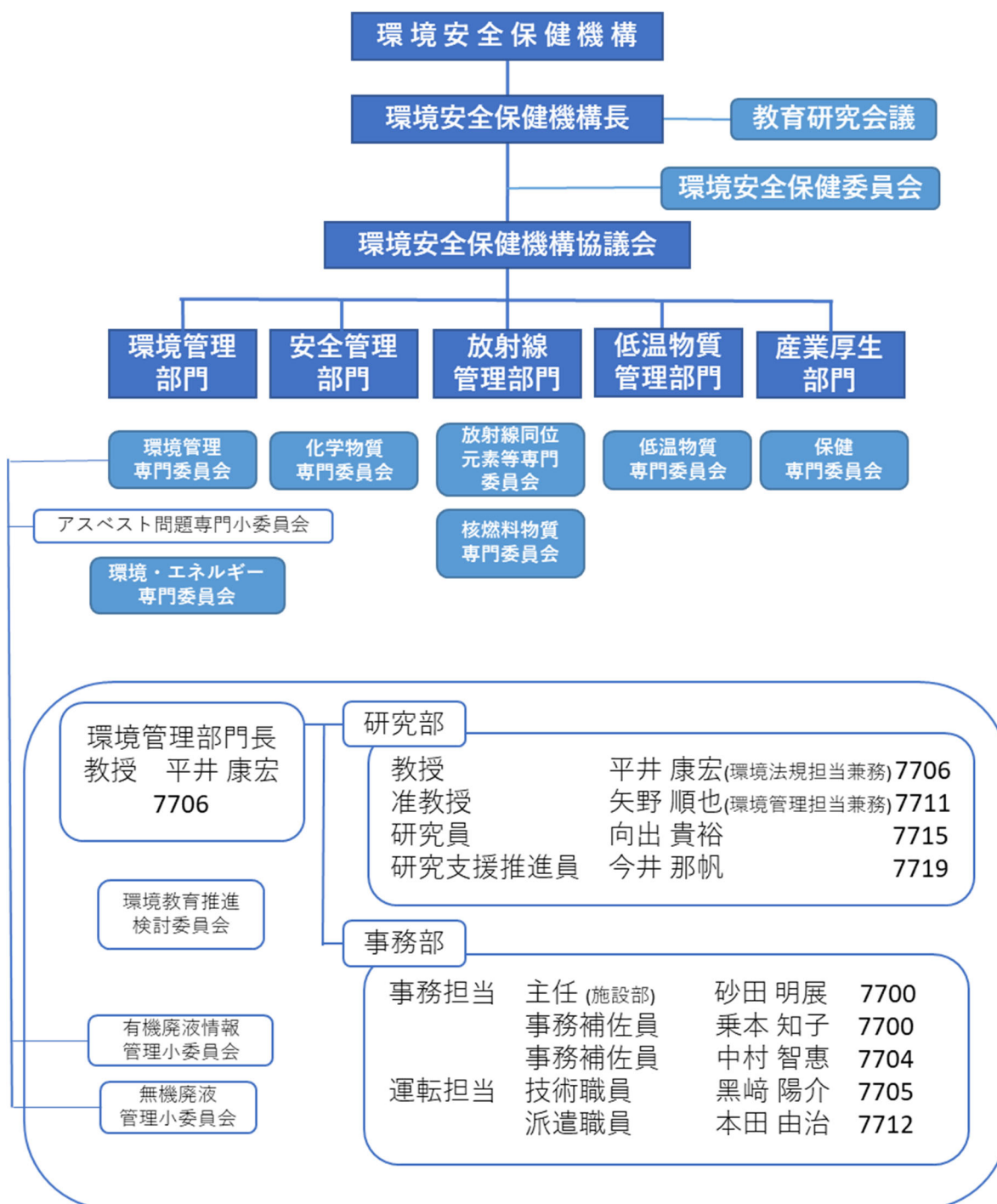


図2 環境管理部門の組織（令和4年4月現在）

4. 1. 2 委員会と委員

環境安全保健機構にあって、環境管理部門が掌握する委員会は、環境管理専門委員会とそれに付随して設置さ

れたアスベスト問題専門小委員会、有機廃液情報管理小委員会、無機廃液管理小委員会および、現在休止中の環境教育推進検討委員会の5委員会があります。

根拠条項	部 局	職 名	氏 名	備 考
3条1号	環境安全保健機構環境管理部門長	部門長	平井 康宏	委員長
3条2号	人間・環境学研究科	教授	田部 勢津久	
3条2号 3条4号	工学研究科	講師	日高 平	桂キャンパス
3条2号	農学研究科	教授	上高 原浩	
〃	エネルギー科学研究科	教授	石原 慶一	
3条3号 3条4号	化学研究所	教授	宗林 由樹	宇治キャンパス
3条4号	医学研究科	教授	妹尾 浩	吉田キャンパス (病院構内)
〃	医学研究科	准教授	原田 浩二	吉田キャンパス 1
〃	工学研究科管理課環境管理掛	掛長	中野 進治	吉田キャンパス 2
〃	高等研究院等事務部財務企画掛	特定職員	前田 智哉	吉田キャンパス (西部構内)
〃	農学研究科	准教授	塚野 千尋	吉田キャンパス (北部構内)
3条5号	環境安全保健機構環境管理部門	助教	矢野 順也	
3条6号	施設部	部長	富田 大志	
3条7号	地球環境学堂	教授	高野 裕久	(アスベスト問題専門小委員会委員長)
〃	環境安全保健機構安全管理部門	教授	松井 康人	
〃	地球環境学堂	准教授	浅利 美鈴	
〃	施設部環境安全保健課	課長	山本 和人	
〃	京都大学生生活協同組合	専務理事	國見 伸行	

表1 環境管理専門委員会 (令和3年4月1日現在)

表2 アスベスト問題専門小委員会 (令和3年4月1日現在)

根拠条項	部 局	職 名	氏 名	備 考
3条1号	環境安全保健機構環境管理部門長 環境管理専門委員会委員長	部門長	平井 康宏	
3条2号	医学研究科	准教授	原田 浩二	
〃	施設部環境安全保健課	課長	山本 和人	
3条3号	環境安全保健機構	機構長	吉崎 武尚	
〃	地球環境学堂	教授	高野 裕久	委員長
〃	環境安全保健機構	教授	橋本 訓	
〃	環境安全保健機構	教授	阪上 優	
〃	施設部整備課	課長	川邊 博之	

表3 有機廃液情報管理小委員会委員（令和3年4月1日現在）

根拠条項	所 属	職 名	氏 名
3条2号	生命科学研究科	助教	小池 雅昭
3条2号	医学研究科	准教授	大田 浩
3条2号	医学部附属病院	准教授	松村 康史
3条2号	病院西地区（ウイルス・再生医科学研究所）	助教	藤本 真慈
3条2号	薬学研究科	准教授	中 寛史
3条2号	工学研究科	講師	日高 平
3条2号	農学研究科	教授	田中 千尋
3条2号	人間・環境学研究科	准教授	廣戸 聡
3条2号	宇治地区（化学研究所）	准教授	登阪 雅聡
3条2号	高等研究院（物質-細胞統合システム拠点）	特定研究員	辻本 将彦
3号1号	環境安全保健機構 環境管理部門	教授	平井 康宏
3号1号	環境安全保健機構 環境管理部門	助教	矢野 順也

表4 有機廃液情報管理小委員会委員（令和3年4月1日現在）

根拠条項	所 属	職 名	氏 名
3条2号	理学研究科	准教授	植田 浩明
3条2号	医学研究科	准教授	原田 浩二
3条2号	医学部附属病院	助教	中川 俊作
3条2号	病院西地区（医学・人間健康科学系）	特定教授	上久保 靖彦
3条2号	薬学研究科	准教授	樋口 ゆり子
3条2号	工学研究科	講師	日高 平
3条2号	農学研究科	准教授	小林 優
3条2号	人間・環境学研究科	教授	田部 勢津久
3条2号	宇治地区（化学研究所）	准教授	坂本 雅典
3条2号	高等研究院（物質-細胞統合システム拠点）	特定研究員	辻本 将彦
3号1号	環境安全保健機構 環境管理部門	教授	平井 康宏
3号1号	環境安全保健機構 環境管理部門	助教	矢野 順也

4. 2 設備等

4. 2. 1 無機廃液処理装置 (KMS)

設置年月：昭和 55 年 3 月、平成 16 年 3 月部分改修、平成 22 年 3 月部分改修

処理方式：空気酸化フェライト法 (NEC (株))

処理能力：前処理系処理量

水銀系	250 L / バッチ
シアン系	130 L / バッチ
フッ素系	100 L / バッチ
一般重金属系	5,000 L / バッチ

設置面積：362 m²

廃液処理試験装置 (ミニプラント)：

試験能力 1 L / バッチ × 4

4. 2. 2 センターの分析装置

・蛍光 X 線分析装置

固体および液体試料の元素濃度

(Cr, Ni, Cu, As, Cd, Pb 等) を短時間に同時測定する

・携帯蛍光 X 線分析装置

固体試料の元素濃度 (Cr, Ni, Cu, As, Cd, Pb 等) を短時間に同時測定する

・X 線回折装置

物質の結晶構造を解析するための装置であり、主にアスベストやフェライトスラッジの分析を行う

・ICP 発光分光分析装置

液体試料中の元素濃度 (Cr, Ni, Cu, Cd, Mn 等) を測定する

・ICP 質量分析装置

液体試料中の微量な元素濃度 (As, Se, Pb) を測定する

・水銀測定装置

固体及び液体試料の水銀濃度を測定する

・小型磁気天秤

固体試料の飽和磁化や強磁性物質の含有率を測定する

・全有機体炭素計

液体試料中の有機体炭素や無機体炭素の濃度を測定する

・分光光度計

液体試料に吸収される特定の波長の光量を測定して CN や F の定量を行う

・フーリエ変換赤外分光光度計

固体・液体試料中の有機物質を分析する

・ガスクロマトグラフ (GC-MS, TCD, FID)

気体・液体試料中の有機物質の定性・定量を行う

・イオンクロマトグラフ

液体試料中のイオン (Cl, NO₂, NO₃, SO₄ 等) を測定する

・高速液体クロマトグラフ

液体試料中の有機物質を測定する

・自動引火点測定装置

液体試料の引火点を測定する

・示差熱・熱重量測定装置

試料の加熱に伴う発熱と吸熱による温度変化、及び重量変化を測定する

・VOC 計

空気中の VOC の濃度を測定する

・CHN コーダー

試料を完全燃焼させ C、H、N 量を測定する

4. 2. 3 その他実験室設備

・活性炭式ドラフトチャンバー

・湿式スクラバー式ドラフトチャンバー

・ウォークインフード

・シリンダーキャビネット